

高度実践看護師の認定における 学会の役割

日時

平成22年12月4日(土)15:30~17:30

会場

札幌コンベンションセンター 中ホール B

座長 岡谷 恵子 (近大姫路大学)
片田 範子 (兵庫県立大学)

シンポジスト

田村 やよひ (日本看護系大学協議会)
内布 敦子 (日本学術会議看護学分科会)
医師(交渉中) (日本学術会議)

【趣旨】

わが国のこれからの医療を方向づける上で注目されているキーワードが「チーム医療」です。看護師は、このチーム医療のキーパーソンとして、利用者や医療スタッフから高い期待が寄せられております。その所以は、看護は、疾病予防から終末期医療まで幅広く活動し、またあらゆる医療現場で、診療・治療に関係する業務から、生活の支援にいたる身近な存在として役割を果たしているからでしょう。

このような役割が果たせる背景には、看護教育の高等教育化の進捗、利用者のニーズに応えた高い水準の看護実践、専門領域でのエビデンスに基づく看護の知や技の蓄積など看護系学会の活発な存在があります。

わが国のますます多様化する保健医療提供の仕組みにおいて、国民に安心で安全な医療を提供する観点から、看護の役割拡大が語られています。その要件として、看護師の能力や資質をどのように保証するかは重要な課題です。看護の専門分野が複雑化・高度化しつつも看護という共通性を基盤にした、看護系学会の総意に基づく高度実践看護師の認証システムをより強化していくことも学会の役割ではないかと考えます。

わが国の専門看護師認定審査の現状を省みながら、諸外国の実情や他分野からの提言などから、看護の未来を展望する議論を、札幌の地で熱く語りましょう。